

## 目 次

|   |  |    |
|---|--|----|
| 1 | 発刊にあたって .....                              | 1  |
| 2 | 入賞者一覧 .....                                | 2  |
| 3 | 作文コンクール（要項・応募状況・審査内容）.....                 | 3  |
| 4 | 受賞作文 .....                                 | 4  |
|   | 富山県知事賞 魚津市立西部中学校 山形 桜水 ...                 | 4  |
|   | 北方領土問題対策協会理事長賞<br>黒部市立高志野中学校 高岡 幸恵 ...     | 5  |
|   | 北方領土返還要求運動富山県民会議会長賞<br>黒部市立鷹施中学校 鈴山 裕之 ... | 6  |
|   | 富山県教育委員会教育長賞<br>黒部市立高志野中学校 森内 駿 ...        | 7  |
|   | 富山県市長会会長賞<br>富山市立和合中学校 野崎 裕未 ...           | 8  |
|   | 富山県「北方領土問題」教育者会議会長賞<br>黒部市立桜井中学校 森内 瑞香 ... | 9  |
|   | 入選 魚津市立西部中学校 石川奈津希 ...                     | 10 |
|   | 入選 魚津市立西部中学校 寺崎 佳菜 ...                     | 12 |
|   | 入選 黒部市立鷹施中学校 川上 玲季 ...                     | 13 |
|   | 入選 黒部市立高志野中学校 福井 雅俊 ...                    | 14 |
|   | 入選 黒部市立桜井中学校 女川 竜平 ...                     | 15 |
|   | 入選 黒部市立桜井中学校 浅野さくら ...                     | 16 |

（巻末）参考資料

## 発刊にあたって

北方領土は、私たち富山県民にとって先人が開拓した大切な領土であり、本県に六百人以上おいでになる元島民の方々にとってはかけがえのない故郷です。しかし、戦後六十年以上が経過した今日も依然としてロシアによる占拠が続けられています。

「私たちと北方領土」作文コンクールは、中学生を対象に、北方領土という日本の領土でありながら日本人が自由に往来できない地域があるという現実を正しく理解し、関心を引き起こすことを目的に実施したもので、今回で3回目となります。

県内全域の中学生から多数の応募をいただき、北方領土の歴史や富山県とのかわり、現在の交流の状況などを自分で調べ、理解している生徒が多いことに驚きました。この作文集は、そのうち十二編の入賞作品を掲載しております。いずれも大変すばらしい作品であり、北方領土問題に正面から向き合って考えたこと、問題の解決には国民の粘り強い取組みが必要なこと、ロシア人との相互理解が必要であることなどが訴えられています。また、残念ながら、

あと一步で入選を逃された作品の中にも、きらりと光るすばらしい作品が数多くありました。

これらの多くの作品から、北方領土問題解決の希望を担う次世代の皆さんが育つことがうかがわれ、喜びにたえません。また、こうした学習を通し、生徒が国際的な場でも活躍できる力を身に付けてくれるものと期待しております。

この作文コンクールを通して、北方領土問題の正しい理解と自らの考えを表現することに関して、それぞれの学校における北方領土についての授業内容が大きくかわってくるということを改めて実感した次第であり、私ども県民会議と教育者会議では、引き続き、北方領土教育の一層の充実に努めていきたいと考えております。

おわりに、この作文コンクールにご協力いただきました多くの皆様方に改めて厚くお礼申し上げます、発刊の言葉といたします。

平成二十二年三月

北方領土返還要求運動富山県民会議

会長 梶 敬信

富山県北方領土問題教育者会議

会長 加藤 昌弘

## 北方領土

魚津市立西部中学校 三年 山形 桜水

去年、私の父が北方領土の返還運動に参加した事があると聞いて、興味を持ち、作文を書きました。そして、二月にあった「北方領土の日」記念大会に出席して、入賞者上位二名の作文を聞いてきました。そこで、私の作文とは、決定的に違うところがあると気付きました。それは、作文を発表した二人は、日本の事だけではなく、現在北方領土に住んでいるロシア人の人々の事も考えている、という事でした。そこで再び、ロシア人の人々の事も考えながら調べてみる事にしました。

最近、新聞を読んでいると、北方領土についての記事がいくつかありました。特に気になったのは、「ビザなし交流」についてです。平成四年から続いているビザなし交流は、北方領土に住んでいるロシア人の人々と、日本人が交流できる、大切な活動です。しかし、八月七日にロシア側からビザなし交流の中止を宣言されました。その理由とされたのが日本が北方領土問題解決促進特別措置法を改正し

た事でした。もちろん、ロシア側にしてみれば、今まで住んできた土地にいらなくなってしまうような事は、つらいはずですが、ビザなし交流を中止する事はなく、来年もぜひ続けてほしいと思っています。交流をしていくうちに、少しずつ、北方領土の返還へ。そして、日本とロシアとの国交もますますよくなっていくと思うのです。

北方領土は、日本にとっても、実際に住んでいるロシア人の人々にとっても大切な領土です。だからこそ、これからも交流を続けていき、北方領土問題の解決につなげていくべきだと思います。

明治時代、富山県から、北方領土への出稼ぎなどがあり、富山県と北方領土とのかかわりは深いと言っても、過言ではありません。北海道の根室市から見ると、日本の領土であって、日本人が住む事のできない領土である北方領土。その問題を解決するために、私たちにもするべき事があります。それは、私たち自身もつと、北方領土について知る事だと思えます。少数の人が考えて行動するより、一人ひとり、しっかりと考えて、意識をしていく事で、問題は、解決に向かっていくのではないのでしょうか。

かわりの深い富山県から、そして、全国へ、意識を深めていく事が、北方領土の返還へつながっていくと思います。

## 今、私達が考えなくてはいけないこと

黒部市立高志野中学校 三年 高岡 幸恵

北方領土は旧ソ連に占領され、今でもロシア人が住んでいる。北方領土調べ学習を行う前はこれぐらいしか思っていなかった。私は、北方領土問題がごく身近なことだとは一切感じていなかった。

夏休みに「富山県と北方領土の関係や人々の生活について」をテーマに調べ学習を進めた。私は今まで、北方領土の人々の暮らしは貧しく、大変なものだと思っていた。しかし、実際は資源が豊富で生活には何も困ることはなかったことが分かり、とても驚いた。私の祖母が以前、北方領土について話していたことを思い出し、祖母に人々の暮らしなどについてインタビューしてみることにした。

「祖母の父は大きな船の船長であり、北方領土に豊富な資源を求めて魚などを捕りに行っていた。祖母の父は北方領土には住んでいなかったが、生地出身者の多い乗組員と共に漁をしていた。三月に生地港を出発し、北方領土で漁をする日々を送り、十二月に捕った魚をお金に換え、生地

に帰ってきた。」そんな話を祖母から聞いた。このことから、生地と北方領土のつながりが深いことがよく分かった。私が生まれ育った町と北方領土が本当につながりをもっていたことを知り、驚いた。そして、私は徐々に北方領土問題に興味をもっていった。

先日、北方領土元島民の方々の講演会が開かれた。元島民の方々は私達中学生に分かりやすいよう、丁寧にお話してくださった。電気器具は全くなく、ランプ生活だったことやカニやホタテを缶詰めにするための加工工場があったことなど、インターネットや本にもないようなことをたくさん知ることができた。それと共に、島を愛する元島民の方々の思いと北方領土が早く返還され、帰郷したいという思いが切々と伝わってきた。

約六十五年前に旧ソ連に占領され、島民が追い出されたということは、六十五年間も北方領土にロシアの人々が住んでいることになる。だから、私は、現在北方領土に住んでいるロシアの人々も元島民の方々と同じ故郷を愛する思いをもっているのではないかと思った。日本はロシアに北方領土返還を強く求めているが、私はロシア人と日本人が故郷を愛する思いを分かち合えば、共存が可能なのではないかと思う。元島民の方々はロシア人は衛生管理が悪く、

一緒に暮らすことは無理だとおっしゃっていたし、北方領土は日本固有の領土なのだと思う人がいるかもしれない。しかし、ここからは日本、ここからはロシアというふうに国境を決めつけたり、ロシア人だから、日本人だからと差別しなくてはならないだろうか。私は北方領土が返還されることを望むが、それよりも人々が分かち合い、協力し合うという最も大切なことを私達自身から考えていかななくてはならないのではないだろうか。

## 色丹島を訪問して学んだこと

黒部市立鷹施中学校 三年 鈴山 裕之

僕は、七月二十九日から八月四日までの一週間、北方四島交流教育関係者青少年訪問事業に、富山県から参加しました。一週間の内、特に印象に残ったのは、色丹島訪問です。

北方領土の色丹島を訪問したのは八月一日、二日でした。色丹島には、ロシア人が住んでいて、僕たちに、パンと塩を皿にのせたもので歓迎してくださいました。こちら

ではそういうしきたりなのだなど思ったのですが、少しびっくりしました。色丹島は、自然に恵まれていて、とても良いところだなと思いました。しかし、道路は舗装されておらず、学校や病院が島に一つしかないなど、不便さも感じられました。

一日目の午後は、現地の学校でロシアの子供たちと、バレーボールやミニゲームなどのスポーツ交流をして、楽しみました。子供たちは小学生から高校生まで十数人いたのですが、日本から来た初対面の僕たちともすぐになじんで、仲良く活動することができ、とてもうれしかったです。色丹島へ行くまでは、「ロシア人は第二次世界大戦後、日本の土地を占領して北方領土から日本人を追い出した」という悪いイメージしかもっていませんでしたが、この一日で、「ロシア人も日本人と同じ人間であり、気持ちはすぐに通じ合えるものだ。」と思い、偏見を持っていた自分が少しはずかしくなりました。

二日目は、ホームビジットといって、ロシア人の家を訪問して、一緒に昼食を食べたり、意見交換をしたりしました。昼食にはロシア料理のボルシチなどをごちそうになりました。僕の訪問した家は六人家族で、みんなとても親切でした。ロシア語は難しくて全く話せなかったけれど、ジ

エスチャーをしたり、通訳の人を通して話したりして話すことができませんでした。

その家の三十代の息子さんが「自分は生まれたときからずっとこの色丹島に住んでいるので、ここが自分の祖国だと思っっている。」と言っておられました。僕は、「ロシアが不法に日本の領土を占拠したのだから、日本はこの島々を返してほしい。」と思うのだけど、ここで生まれ育った何の罪もないロシア人の人たちもたくさんおられることを思うと、複雑な気持ちになりました。でも、「早く北方領土が日本に返還されて、もつと日本とロシアの仲が良くなれば良いのに。」と思います。

僕にとってこの二日間の訪問は、今まで遠い話のようでもあった北方領土のことを深く考えさせてもらうすばらしい機会となりました。今まで身の回りの狭い範囲でしか、ものごとを眺めていなかったのが、自分の知らない広い世界に目を向けることで、新しい発見や今までとは違う方向からの、ものの見方があるのだということに気付かせてもらいました。少しでも早く北方領土が日本に返ってくるように、みんなでこの問題について考えていきたいです。

## 古里について

黒部市立高志野中学校 三年 森内 駿

ある日、自分の住んでいるところに知らない外国人が来て、「出て行け」と言われ、今まで住んでいた思い出のある家、学校そして町から離れなければならない、となるとどう思いますか。そんなことあるわけないから、考えなくても良いと思う人もいるかもしれませんが、これは現実起こったことなのです。今なおそんな出来事が起こって古里に帰ることができない、そんな人たちがいます。あなたは、これについてどう思いますか。

第二次世界大戦、世界が混乱している中でも、北方領土には苦しくとも平和な日々が続いていました。しかし、ある日突然……。

総合的な学習の時間に北方領土の元島民の方々のお話を聞く機会がありました。

僕は元島民の吉田義久さんの話を聞いて、今の自分がとても幸せなのだと思いました。それは今、北方領土に住んでいるロシアの人々も同じだと思います。なぜなら

両方とも、愛する町にいるからです。

北方領土問題が何なのか分かりませんが。これは過去のことでではなく、今も続いていることなのです。ロシアがすぐに土地を返せばすむ問題、と思っっているかもしれないが、それはとても難しいことなのです。なぜなら、今もそこに人が住んでいて、その人たちは幸せだからです。もし、強引にその人たちに出て行ってもらうとなると、以前に日本人が追い出されたことと全く同じになります。だから、北方領土問題は難しいのです。

僕は、この問題について二つの国の人々が仲良く暮らすことができればよいのに、と思いました。言葉は通じないし、文化も違うから無理だ、そう言われるかもしれませんが、しかし、時代は違っても、同じ場所で生まれて育ってきた仲間です。そして同じ故郷を愛する人間なのです。それが一緒ならば、同じところに住むことは難しくないと思います。

しかし、僕の思っていることはなかなかうまくいきません。でも、同じ地球人、みんな家族と思うことができれば必ず解決できると思います。もし、日本とロシアがこの問題を解決できれば、世界の良い手本になると思います。

## 北方領土返還を信じて

富山市立和合中学校 一年 野崎 裕未

最初、私のもつ北方領土の知識といえば、「択捉、国後、色丹、歯舞の四つの島がロシアにとられた」という単純なものでした。でも今年、姉が北海道に行き、北方領土を見に来た際にもらったパンフレットなどを読んで、北方領土問題についてよりくわしく知り、その問題に対する自分の考えを深めることができました。

その中でもとてもショックをうけたのは、ロシア(旧ソ連)のしたことのひどさです。一方的に条約を破棄して、北方四島を占拠して……それだけでもとても勝手で腹が立つのに、さらに樺太であった数々の地獄のようなエピソードを聞くともう「なんて勝手なんだろう」ところではありませんでした。そのことについて知るたびに、なぜ、今までこの大事な問題を知らなかったのかと恥ずかしい気持ちになりました。

特に印象的だったのは、真岡郵便局の九人の乙女の話などの樺太での悲劇です。「むごい」「かわいそう」と思うよ

りも先に「忘れてはならない」と感じました。日本人が開拓した土地なのに、ロシアにのつとられて多くの人が犠牲になった事、故郷に帰ることを望みながら亡くなった人がいた事：全部忘れないでおく事が、北方領土の返還への一歩につながるのではないかなと思います。

それに「北方領土返還」についてたくさん運動が行われていることも知りました。私自身が参加できる可能性は少ないと思うけれど、せめて「なんらかのカタチでお手伝いしたい」という想いだけはもってたいです。また、人々の願いと努力が実ることを共に信じてたいです。

パンフレットなどを読む他に、歌もいくつか聴きました。

「北方領土の歌」、「ちぎれ千島に雲が飛ぶ」、「千島慕情」、「北の島」：：などです。それらの歌にはいずれも、怒りよりも悲しみがこめられていて、それぞれの島の様子も美しく歌われていました。「島を返してほしい、ふるさとに帰りたい」との思いが聴く人全てに伝わる歌でした。

北方領土に関して、このようなことを私は考え、感じました。でもまだまだ私知らないだけで、北方領土の問題はもっと複雑で、他にもいろいろなエピソードがあつて、もっと多くの傷ついた人々がきつといると思います。だからこそ私はさらに北方領土問題について知って、考えを深

めないといけないと思います。領土返還の、強い意志をもたないといけないと思つています。そして私は一度でいいからこの目で北方四島を見ることができればいいなと感じています。大事な日本の一部が、いつか必ず還つてくることを信じてたいです。

## 北方領土と富山の百年

黒部市立桜井中学校 三年 森内 瑞香

わたしは、今まで北方領土について「日本がロシアに国後島・択捉島・色丹島・歯舞諸島の四島の返還を求めている」ということくらいしか知りませんでした。でも、母から「実は、北方領土と富山県は意外と関わりが深いんやよ」と聞き、北方領土について調べてみたくまりました。

第二次世界大戦終了時には、富山県から二百世帯、約千三百人もの人々が千島・歯舞諸島に渡航していたそうです。島へ渡り始めたのは、明治十六年頃で、地引き網だけの沿岸漁業では生活が苦しかった当時の生地の漁民が利尻島方面に出稼ぎに出たことが始まりのようです。その後、



新湊や魚津、入善などの漁民も出稼ぎに出るようになり、小樽や函館などの北海道全土、さらには歯舞諸島・国後島などにも渡って行ったそうです。大正時代になると、島に定住する漁民が増え、こんぶ漁場を開拓していききました。また、さけ・ます漁業にも積極的に進出していききました。つまり、北方領土は、こうした富山県出身の人々の努力によつて拓かれ、発展した土地であるということが分かりました。

しかし、ロシアは太平洋戦争終了時に北方領土の土地を拓いた人々から、土地と仕事を奪ってしまいました。とても残念なことだと思えます。島を離れる人々は、開拓した土地を手放したくなかつたろうし、せっかくの漁場を離れることに怒りを感じたと思えます。そして、機会があれば島に戻りたいという気持ちをもっておられるだろうと思えます。引き揚げてきた元島民のうち九十五%の人が、現在黒部市と入善町に住んでおられるそうです。わたしが住んでいる黒部市は、富山県の中でもさらに関わりが深い地域であるということになります。いろいろなことが分かってくると、北方領土問題が一気に身近な問題であるような気がしてきました。

日本は、ロシアに対して領土の返還を求めてきましたが、

長い間進展がありませんでした。しかし、最近は、少しずつ解決に向けて動き出したようです。現在、北方領土にビザなしでの渡航が可能になり、元島民の方や北方領土返還運動をしている方たちが島に渡って、ロシア人島民と対話集会を開き交流するまでになったそうです。

「北方領土はわたしたちの土地だ」と主張し、国境を決めることも大切だと思えますが、北方領土が日本の土地だと認められることは今住んでいるロシアの人たちを追い出すことになってしまいます。わたしは、まず、北方領土で日本とロシアの人々が共に暮らすことができる日が来ればいいなと思えます。そして、粘り強く交渉を続け、やがては、日本固有の国土である北方領土の四島が、しっかりと日本の元に返ってくる日がきてほしいと思えます。

## これからの未来へ

魚津市立西部中学校 三年 石川奈津希

現在、択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島からなる北方領土は、日本国民が父祖伝来の地として受け継いできた

ものです。そしていまだかつて一度も外国の領土となったことがない、日本固有の領土です。しかし、終戦直後にソ連軍により北方領土は不法占拠され島民は島を追われ、この状態はソ連が崩壊しロシアとなった現在も続いていません。戦後、日本は一貫して、北方領土の返還をロシアに対して要求し続けています。一九五六年、日ソ共同宣言が署名され、両国間に国父が再開されてから既に五十年余りが経過したにもかかわらず、返還の見通しは立っていません。

数日前、ある北方領土のホームページで、元島民のお話を読みました。そこでは、島を追われて四十三年目の平成二年に初めて択捉島のお墓参りに行った話が書いてありました。元島民たちが村に来てみると、昔あった建物は全てこわされていて、ただ学校の門だけが残されていたそうです。もし私がある場にいたら、さびしさというよりはひどく心が傷ついただろうと思うし、その場に咲いていた花は、他の人から見るときれいだと思いますが元島民の人たちには、にくしみや怒りがこみあげたと思います。しかし、その後見た美しい自然はきつと、元島民たちの心をなぐさめてくれたことでしょう。

これまで、日本は日露通好条約や樺太千島交換条約、ポ

ーツマス条約、サンフランシスコ平和条約などを結んできましたが、その状況はいまだ一向に変わらず、ただ時間が経っていくばかりです。それでも、その状況を少しでも変えようと、様々な団体や人々が活動をしてきていますが、これもまた結果が出ていません。

私は、北方領土問題を解決するためには、まず日本とロシアの国民一人ひとりが、日本だけの領土である北方領土についての正しい理解と認識を深めることが大切だと思います。また、日本人とロシア人がお互いに理解を深めることも必要なかもしれません。

将来、島が返還されたら、島を日本とロシアの友情のかけ橋にして、お互いの国がもっと仲良くしていくべきだと思います。そうすれば、日本人とロシア人が共存できると思うし、これからの社会も大きく変わっていくにちがありません。私たちは元島民の人たちが、また楽しい暮らしができるよう、一日も早く北方領土が返還されることを願っています。



## 北方領土問題の解決を願って

魚津市立西部中学校 三年 寺崎 佳菜

現在、日本とロシアの間で問題になっているのが、北方領土問題です。

私は、テレビのニュースや、小学校で北方領土問題について、見たり聞いたりしたけど、「自分には関係のないことだ」と思っていました。しかし、日本地図を見たときに、改めて日本の領地だと知ると、「何でロシア人が日本の領地に住んでいるのだろう」と疑問に思いました。北方領土に関心をもつようになったのは、これがきっかけでした。

北方領土について調べて、驚いたことは、北海道本島から、北方四島の中で一番近い、歯舞群島までの距離は、三・七キロメートルという、とても近い場所にあるということです。四島の中でも最も遠い、択捉島でも約百四十五キロメートルの場所にあります。私は、調べる前、北方領土はとても遠い存在だと思っていました。でも、実際は、けっこう近い所にあつて身近に感じることが出来ました。

また、北方領土は面積が小さいような感じがしていたけど、北方四島の面積を全部合わせると五千三十六平方キロメートルで沖縄県の二倍の面積もあることに、これもまた驚きました。

このように、日本固有の領土なのに、私たちは、北方領土のことをあまり知らない人が多いと思います。

昭和二十年ごろの第二次世界大戦の終戦後、ポツダム宣言が出された後、ソ連軍に不法占拠された四島からなる北方領土は、現在も不法占拠下にあります。不法占拠されたとき、島に住んでいた人々は、皆追い出されたそうです。私は、今まで住んでいた場所や家などから、出ていかなければならなかったのなんて、すごく悲しいことだと思いました。また、怒りも感じていたと思います。

だから、北方領土を取りもとそうと、返還運動をしている人々もいるそうです。でも、日本からすると、四島の土地を返してほしいと言っても、今はロシア人が暮らしていて、建てた家や設備された道路、仕事や学校を全部奪ってしまうのだから、四島に住んでいるロシア人は困ってしまうと思います。

これから、日本とロシアの両面で考えていかなければならないと思います。

北方領土問題が解決したら、四島に自由に行き来できるようになり、昔住んでいた人々や、その子供など行き、嬉しいだろうなあと思います。

また、日本とロシアの関係もよくなると思います。出来るだけ早く解決することが大切だと思います。一人ひとりが北方領土問題に対して、「他人事」だと思わず、関心をもっていけたら解決できる日も近いと思います。

## 四島還れ 日本の声

黒部市立鷹施中学校 三年 川上 玲季

今、日本とロシアとの間には、「北方領土問題」があります。どうしてこのような問題があるのかというと、昭和二十六年に結んだ「サンフランシスコ平和条約」があり、その中で日本は、千島列島を放棄しました。日本が放棄した千島列島とは、ウルップ島より北の島々のことで、北方領土は日本の領地だという考えだけど、ロシアは、千島列島は北方領土を含むという考えの違いから起こったものです。もっとしっかりと話し合いをして、決めるべきだった

のではないかと思います。

私が、この問題を聞いた時に、おどろいた事がありました。それは、この黒部市から、北方領土へ行った人がたくさんいたことです。だから、黒部市は北方領土問題の解決に力を入れています。毎年、黒部市総合体育センターで行われているフェスティバルでは、北方領土問題解決への署名をおこなっていました。そこで私も、署名をしました。用紙には、すごく多くの人が署名をしておどろきました。それと同時に、みんな北方領土の返還を強く望んでいることが分かりました。その時に、署名をするボールペンをいただきました。そこに書いてあった言葉が「四島還れ 日本の声です 叫びです」というものです。この言葉は、黒部市民だけでなく日本全体の思いだと思います。

当時、そこに住んでおられた方は、漁業などをして生活しておられたそうで、自然災害などもあり、計りしれない苦労もあったと思うし、大変な努力や工夫もあったと思います。病院なども少なく、設備が整っていない状況で不便で困難だったと知りました。けれど、しだいに生活が豊かになってきて、島をふるさとと決めた人は祖先の墓も建て、つらいこともあったけれど、そういったものを乗り越えて

一生懸命に努力をしたそうです。

日本人が、これほど力をかけていた島を、現在ではロシアに占拠されて、日本人が住めないことは、住んでいた人はすごく悔しかったと思います。

この問題を解決するために、私たちが何をすればいいのかということは、具体的には分からないけれど、もし出来ることがあったら、精一杯努力して生活していた当時の人々のため、自分たちの国の領地の返還のために、取り組みたいと思っています。

## 私たちにできること

黒部市立高志野中学校 三年 福井 雅俊

僕は今まで北方領土問題に関心がなく、何も知らなかったのですが、元島民の方々の話を聞くと故郷に帰れない無念さが伝わってきました。元島民の吉田義久さんの話によれば、今でも北方領土の光景を夢で見るとおっしゃっていました。だから僕はこれからの社会に対していくつかのことをすればいいと思います。

一つ目は政府がこの問題に対してきちんと向き合うことです。これまでの政府の取り組みではまだ不十分だから解決がされないんだと思います。北方領土が返還されれば、日本にとっても、根室市や漁業の活性化、日本とロシアの平和条約締結などたくさん利点があり、良いと思います。そのためにも、ロシアとしっかり話し合っていってほしいです。

ロシア人はほがらかで親切で良い人が多いそうなので、理解者となってくれるロシア人をたくさん増やせば返還につながると思います。

二つめは日本国民が北方領土問題に対しての関心をもつことです。僕もこの学習をする前は、北方領土には択捉島、国後島、色丹島、歯舞諸島があり、一九四五年に占拠されたということしか知りませんでした。しかし、北方領土の占拠というものは、もつと残酷で恐ろしいものでした。一九四五年八月二十六日にソ連軍の占拠が始まり、島を出ることになりました。しかも網の中に入れて貨物船に乗せられ北海道へ連れてこられたと話されました。お年寄りや幼い子供は何人も亡くなったそうです。何とか生き延びられても財産を全て置いてきたため、食料もご飯一杯を三人で分けたり、ジャガイモを二人で分けたりと貧しいもの

でした。島に残つて働かされた人々は逃げようとしたのですが、見つかり厳しい罰を受けたそうです。このように元島民の方々はつらい生活をしてきました。このことを理解し、自分たちのできることをすることが大切だと思います。署名をしたり、ロシア人との交流に参加するべきだと思います。

吉田さんの言葉に「自分たちのふるさとを返してもらふことは義務であり使命」というのがありました。ロシア人によつて島を汚される悔しさが伝わってきました。それで僕も島を返してもらふために、何かしないといけないなと思ひました。

僕は最初この学習をする前、日本も満州や中国などを侵略して、人の命や故郷を奪つたのだから、北方領土だつて返還されなくてもいいと思つていたけど、故郷を失つた人々の声を聞くと、人々は自分の故郷に住むべきだと思うようになりました。

いつか北方領土が返ってくる日がくることを願っています。

## 問題解決を目指して

黒部市立桜井中学校 三年 女川 竜平

現在、北海道の北東にはロシアに占領されてしまい、北方領土と呼ばれる日本固有の島々があります。日本政府は何十年も返還を求めています。いまだに、問題は解決していません。

問題が始まったのは第二次世界大戦が終わったときです。ポツダム宣言を受諾した時点で北方領土は日本の領土でした。しかし、ロシア軍が戦争を終え、抵抗する戦力のない北方領土を占領してしまいました。武力で土地をうばつたのです。たしかに、太平洋戦争中に日本はアジアの国々を侵略しました。しかし、戦争が終わると、その土地を放棄しています。ロシアもそうするべきではないでしょうか。領土を返還し、平和的に問題を解決するべきではないでしょうか。島にはたくさんさんのロシア人がすでに住んでいるし、経済面で利益になるかもしれません。しかし、歴史的流れから見ても、地位的なものからしても、北方領土は日本の領土です。

では、問題をどう解決すればいいのでしょうか。僕はしつかりと話し合うべきだと思います。島がどんな状況にあるのか、ロシアはなぜ、返還したくないのか、日本はなぜ、返還してほしいのか、返還されるとどのようなことが起こるかなど、お互いをよく知り、話し合うことで、両国が納得する、できれば全島返還という形で解決できればいいなと思います。

江戸時代にロシアと日本の間でこんなことがありました。条約を結ぶために水兵など五百人を乗せた船が下田に來航し、話し合いが行われました。話し合いが始まって数日たったところに、沖合で大地震が起き、ロシアの船が沈んでしまったのです。乗組員は近くの村の人々に船が沈む前に助けられて無事でしたが、帰るための船を失いました。日本とロシアの技術の両方をとり入れながら協力し合つて、新しい船をつくることになりました。そういう中でお互いのことを思いやりながら話し合うことで、納得のいく条約を結び、新しい船でロシア人たちは故郷へと帰っていききました。思いやりの気持ちをもつことで問題を解決したのです。

お互いをよく知り、話し合うことと思いやりの気持ちをもちつこと。この二つがそろったときに北方領土問題の解決

が見えてくると思います。一日でも早く問題が解決してほしいです。そう思うことも大切なことの一つです。

## 日本人の願い

黒部市立桜井中学校 三年 浅野さくら

私の祖父は北海道で漁師でした。そんな祖父は北方領土のことをよく知っていて、私にいつも話してくれました。とても形がきれいな山があるそうで、間近に見てみたい、と。昔は、六海里まで魚をとつてもよかつたにも関わらず、四海里しか動いてないのに、ロシア側に逮捕された経験もある祖父は、北方領土に近づけないことをよく分かっていると思います。それでも、何度も私にその話をした祖父は、きつと強い思いがあつたんだと思います。そんな祖父が少し寂しそうに見えました。

そして、日本の漁師が北方領土辺りで遭難し、亡くなった人も多くいるとも聞きました。身内の墓参りに行きたくとも、行けない。そんな日本人はどれだけいるのでしょうか。富山県は北方領土からの引揚者が、北海道の次に多い

場所でもあります。県内に、多くの人が悲しんでいる。私は富山県人として、日本人として、北方領土問題を解決することは大切だと、改めて思いました。そして、少しでも力になりたいと思い、私は署名運動に協力させていただきました。

しかし、少し気になっていたことがありました。それは、現在北方領土に住んでいる、ロシアの方々のことです。こうして、日本では返還を求めているけれど、ロシアの方々だって、自分達が生きるために必要な領土です。日本人が、かつて生きるために開拓した北方領土を、現在はロシアの方々が生きるために必要としている。日本人にとっては、不満も大きいと思います。しかし、それと同時に生きる場所をとられる悲しみをよく理解しているのも日本人です。私は決して日本人がロシア人を追いだしてはならないと思います。ロシアを追い出すことで、領土問題が解決し、ロシアと平和条約を結べるかもしれません。けれども、ロシアとの友好関係を築くことはできません。

北方領土は、日本の固有の領土。しかし、ロシア人を日本人と同じ目に合わせてはならないと思うのです。そのためにも、ロシア人の住む場所を保障しなければなりません。そうした、日ロ両国民を尊重した運動をしていくことが、

領土問題を解決する上でとても大事なことだと思っています。そして、何より解決に近づけるためには、日ロ両国民ひとりひとりが日本固有の領土である、北方領土についての、正しい理解と認識を深めることだと思っています。また、お互いに理解を深めることも必要だと思っています。

私たちがこれらに気をつけ、北方領土問題を解決し、平和条約を結び、日本とロシアの間の本来に安定した友好関係を築くことが、私の願いでもあり、日本人の願いでもあります。よって、私自身から意識していきたいと思っています。

